

米朝会談で「同盟の本質変わった」

シンガポールで12日に開かれた米朝首脳会談を踏まえ、自民党総裁外交特別補佐の河井克行衆院議員＝写真＝が15日、語った。

「この米朝会談の真の衝撃が、まだ広く理解されていない」

何が衝撃か。

「同盟の本質が劇的に変わったことだ。日米、米韓、米英など自由世界の同盟は、これまで『価値の同盟』だった。価値とは自由、民主主義、法の支配、公平・公正



平等、透明性などの共有だ。それが今回、『価値から取引の同盟へ』と本質が変わった」
その証拠は。

「ドナルド・トランプ米大統領は、米韓合同軍事演習の中止を記者団に公言した。恐らく、韓国との打ち合わせなど事前に全くなかっただろう。中止の理由は『金がかかりすぎるから』と言った。これは、価値ではなく」



5857

「直前に、カナダのシャルルボワでG7サミット(先進7カ国首脳会議)があり、閉幕前に会場を後にしたトランプ氏はシンガポールに向かう機中から、探検された首脳宣言を『承認していない』と、ちやぶちやぶ返ししていた。ツイッターで同盟国の指導者たちを批判した。シンガポールでは、強権・抑圧・独裁の若き指導者である金正恩(キム・ジョンウン)朝鮮労働党委員長に『心から称賛する』という言葉を発し、固く握手した」

安倍晋三首相の対応は。「すべてを飲み込んだらうえ

で、一言もトランプ氏を批判しない。現実が変わったから、批判してもしょうがない」

現実が変わった、とは。

「トランプ氏は、思いつきで決めたのではない。決めたのは、米国の有権者だ。大統領選の公約『アメリカ・ファースト』を、トランプ氏は忠実に果たしている」

「今回の会談の結果を喜んだのは、中国だ。最も恐れていた『北朝鮮の体制崩壊』がなくなり、米朝が軍事力を行使する可能性も低くなった。在韓米軍の実体は、中国に備えているが、この縮小・撤退を習近平国家主席は確信した」

日本は、どうすべきか。

米国の世論調査によると、51%の国民が、米朝首脳会談を含むトランプ氏の北朝鮮対応を「支持する」と答えた。トランプ氏は、11月の中間選挙に向けて、わが意を得ているようだ。(政治評論家)

河井克行氏「価値から取引へ」